

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572307999		
法人名	有限会社 恵の里		
事業所名	グループホーム 恵の里 A棟		
所在地	潟上市天王字棒沼台287-11		
自己評価作成日	平成29年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元気に活動される方が増えた事により、洗濯たみや山菜、野菜の下拵えなど利用者様が全員であるいは、個々の役割として積極的に参加されている。また、そうした事は車椅子を使用されている方も同じように参加されている。職員に限らず、利用者様自身が、他の利用者様のお話を聞いて不安を解消されるように働きかけてくれたり、支え合ったりする場面がみられている為、過剰になったり、負担にならないように配慮しながら、過ごしやすく暮らせるように支援している。また、看護師が常勤している為、細かな体調の変化に対して相談する事が可能であり、利用者様が安心して過ごす事が出来ていると思われる。季節を感じられるように行事の開催や食事の提供などを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は毎朝唱和され、全職員がいつでも全文を暗唱できる程である。町内会に加入しており、そもそも代表取締役が住民であったこともあり、近隣住民とは開設当初から違和感なく溶け込んでいる。当日の昼食の菊は、近所の方から頂いたとのこと。自治会長がリンゴやカボチャを差し入れてくれたり、公園の草刈りで奉仕する関係にある。避難訓練に10名もの地域住民が参加し協力しており、地域の方から、避難用スロープの工夫の他、ホーム井戸の掘り方を伝授してもらったとのことで、地域の特徴である手掘りの井戸が各棟で活用されている。利用者だけでなく、訪問される家族へもやさしく明るく接してくれ、様々な企画が利用者本人の張り合いにつながっており、安心して居心地が良いと、家族から感謝されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念の唱和を行い、また、利用者様が自己決定出来るようなケアを目指している。	開設当初の理念は14年経過した今も、職員の利用者に対する変わらぬ基本姿勢であり、継続して掲げている。理念は毎朝唱和され、全職員がいつでも全文を暗唱できる程である。棟毎に職員が意見を出し合い作成した「〇棟の目標」が各事務室に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。散歩の時に花を頂いたり、町内の方から取れたてのお野菜を頂いたりしている。	町内会に加入しており、そもそも代表取締役が住民であったこともあり、近隣住民とは開設当初から違和感なく溶け込んでいる。当日の昼食の菊は、近所の方から頂いたとのこと。自治会長がリンゴやカボチャを差し入れてくれたり、公園の草刈りで奉仕する関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	中学生の職場体験の受け入れを行い、認知症だけでなく、高齢者との接し方や介護についても伝えている。また、町内会参加の避難訓練時にも車椅子の使用方法なども含めて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、ホームの現状について報告し、それについての意見やアドバイスを頂いている、頂いた意見に基づき改善した事について、結果を次ぎの機会に報告をしている。	地域住民の避難訓練参加についても、議題として取り上げており、避難訓練に10名もの地域住民が参加し協力している。避難用スロープの工夫の他、ホーム井戸の掘り方を伝授してもらったとのことで、地域の特徴である手掘りの井戸が各棟で活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、市の職員から参加して頂き、アドバイスを頂いている。生活保護に関する相談や成年後見制度についての相談を行い連携をしている。	都度運営推進会議の趣旨に合わせたメンバーを市が派遣してくれ、9月には感染症予防対策について詳しい担当者が参加し、次亜塩素酸ソーダの扱いについて学び、果物の洗い方等とても参考になったとのこと。生活保護受給に向け、早くから市の担当者と連絡調整をしている現状も確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、夜間のみ施錠を行っている。転倒リスクの高い利用者様には、ベッドから足を下ろすと鳴るように感知式のセンサーを設置しているが、転倒リスクが極めて高い利用者様に関しては家族と相談しベッド柵を使用している。	現在対象者はいない。身体拘束及び行動制限防止に関するマニュアルが整備され、活用する様式等も詳細に定められている。当日は朝から玄関ドアが開放され、自由に出入りできる状態。ベッド柵については、利用者本人がベッドからの出入りを自由にできる状態であることが確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの時に高齢者虐待について学ぶ機会を設け、言葉の使い方で相手を傷つける事もあるので、気を付けるように心掛け、気になる場合にはその都度注意をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員に連携し、市長申し立てで成年後見人を付ける事が出来た方がいる。また、入所以前に制度を利用して後見人を付けて入所された方もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が県外や勤めている場合も多く、特に今後の生活や通院をして貰えるかなどの心配をされおり、対応について説明をしている。また、長期入院の為、契約を解約しなければならない場合に、その後の状態に不安を感じており、在宅のケアマネや病院の相談員と連携しながら、理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の説明に第三者機関への苦情申し立てが出来る事をお知らせしたり、玄関に書面で苦情申し立てが出来るように箱を設置している。また、面会にいらした時に状態を説明しながら、家族に意見を伺い、反映させている。	ネームプレートを活用しているが、家族から、「職員の顔と名前が一致しないので工夫して欲しい。」との意見を踏まえ、A棟B棟の廊下に、棟毎の職員の顔写真と担当職種及び氏名を掲示してあることが確認できた。やさしさあふれる表情の写真が印象的である。	重要事項説明書に若干のミスプリントがあるので、修正するよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送りなどで職員の意見を聞き、業務の改善や運営に反映させている。	介護支援専門員の資格を取得した職員から、ケアプランの作成に携わりたいとの希望を受け、ホームへの異動が実現したとのこと。職員間の親睦を図りたいとの希望に沿い、企画担当を決め、忘年会や新年会等を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を利用し資格や勤務状況に応じて昇格や昇給に反映させている。今春、ケアマネの資格取得した職員がおり、ケアマネ業務が出来るように現在認知症の実践者研修を履修している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1度、ホーム内研修を実施している。また、職員の経験や能力に応じて外部研修にさせたり、随時、個々に合わせた指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿・潟上・南秋GH協で行っている介護部員部会に参加させ、交流する機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談では在宅のケアマネ、病院の相談員や看護師に同席して頂き、本人の困っている事や必要な事など伺い、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同居されてきた家族、独居の本人の生活を見守ってきた家族によって感じてきた思いや困っている事に違いがあり、その思いを受け止め、要望を引き出しながら丁寧な説明を行い、安心出来るように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	乾いた洗濯物をホールに持っていくと自然に利用者様が集まり畳んでくれたり、食器を拭いてとお願いしたりしながら、本人の役割を持って頂き、一緒に暮らす事を心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者がお便りで本人の様子や健康状態をお知らせし、必要に応じて、家族と連絡を取り、相談している。また、本人からの墓参りなどを気にしていると伝えて家族との外出や面会などの支援をお願いしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方や親戚の方の面会に来られて一緒に過ごされています。また、病院受診時に知り合いの方にお会いされる事が、談笑されています。	天気の良い日は住宅地である近所を散歩。病院へ行く馴染みの方と会い、挨拶を交わすことが多く、病院の売店利用も楽しみの一つになっている。2ヶ月に一度、馴染みの美容院が訪問してくれている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元々、お隣同士の方が入居され、お互いにケンカしたり、声を掛け合ったりする場面もみられるが、自分の意志で動かれているので見守りながら、必要な所で支援するようにしている。また、世話好き、聞き上手な方もおり、新しく入られた方に対しても積極的に仲間に入れて下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により、ホームへの継続して利用する事が難しくなった場合において、次のサービスが利用する事が出来るように相談や在宅のケアマネに連携している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意志(寿司、食べたい、梨狩りに行きたい、)などの意見を出せる方もおり、工夫をしたり、一緒に外出する機会を設けたりしている。また、トイレの希望しか出せない方もおり、アセスメントを通して検討している。	食堂の椅子の高さを利用者個々に合わせ、DIYで高さ調整をしたり、安定性と介助性を考慮した結果、椅子の前方にキャスターを取り付けているケースも確認できた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方からの聞き取りや在宅のケアマネからの情報も含め、本人から話される内容からも把握している		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化により本人のその日の活動が左右される方もおり、身体状態の把握をしたり、アセスメントを通して有する能力の変化を把握している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の方には面会時に現在の状態を説明し、相談している。また、担当職員、看護師からも意見を出して貰い、ケアプランに反映させている。	毎月支払いに家族が訪問した際に、意見や要望、現状を確認し合う他、職員の日々の申し送りの中で現状を共有し合っており、担当者をメインにしたアセスメント会議につなげている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、一人ひとり個別の記録に記入し、毎日の申し送りやカンファレンスで情報を共有している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	最近の天候不順に左右されていますが、散歩の時に花摘みをさせて貰ったり、ワラビ取りをされたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医がいる場合には、家族と相談し、継続して通院を援助している。また、かかりつけ医がない場合、また専門的な医療が必要な場合には本人が必要な医療を受けられるように相談し受診している。	車で4分の距離にある病院を利用される方が殆ど。訪問歯科を利用でき、助かるとのこと。健康診断は各々のかかりつけ医で実施している。よく利用する薬局が2か所あり、配達はもちろんのこと、一包化や、利用者個々の状況に合わせた服用形態についての相談に、親身に対応してくれる。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携をとり、気づいた事を伝え、相談して適切な受診が出来るようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの生活状況を口頭とサマリーで伝え、医療機関と情報交換をしている。常にDrに相談しながら、病院との関係づくりをしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、ご家族と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分説明し支援に取り組んでいる。	「ターミナルケアに関する指針」が整備され、過去に3名をその対象として看取った経験を有している。訪問医療も受けられる体制にあり、常駐看護師の存在は家族にとっても職員にとっても心強い存在である。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や、初期対応の実践訓練を行っているが、定期的ではない。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の避難訓練の実施(地域との協力体制)、2か月に1回のホーム内の避難訓練の実施を行っている。	前回の外部評価結果を踏まえ、運営推進会議で協議した結果、近隣の児童公園を一時避難所として定め、指示があるまでは、児童公園で待機することとした。町内総会で避難訓練への協力を呼び掛けており、ホームから一時避難所である児童公園までの誘導が地域住民の役割として確立している。	手作りの頑丈な避難用スロープをDIYで作成する等、労力をいとわずに即対応しており、今後も利用者の状況の変化にあわせた工夫や対応を継続するよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには、注意しているが、完璧ではない。利用者様の誇りやプライバシーを損ねないように努力している。	利用者とのコミュニケーションが確立すると、ついつい友達感覚で接してしまうことがあり、言葉使いや接し方について再確認することもある。畑作業や炊事について、利用者からアドバイスを受けることが多いとのこと。当日、少々寒いとの利用者からの声を受け、早速床暖房を作動させていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様よりの表意があれば、その都度、思いを共有したり、自己決定出来るように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間と自由な時間を区別する事でメリハリのある生活に繋がっている。自室とホールの出入りは自由になっている。体操やレクリエーションの参加や内容は、希望に沿って実施している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で清潔な衣類や季節感や温度などに合わせて着衣出来る方もいらしゃるが、出来ない方には季節にあった衣類を介助している。また、外出時にはそれに見合った服装の援助を行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現有機能を活かしたお手伝いをして頂いている。調理の下拵えや食器拭き、おしぼりを巻いたり、布巾をたたんだりして頂いている。	利用者が下ごしらえを丁寧に手伝ってくれている。おしぼりとテーブル拭きは自分の仕事だとの強い認識を持つことが、その方の生きがいにつながっている。お盆・正月・彼岸・ひな祭り等催事に合わせた献立を工夫している。自由に選べる回転ずしは人気で、外食の際の嬉しそうなお写真が物語っていた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量はチェック表に記録する事で把握出来ている。摂取量が少ない時は記録し、原因を探り、改善している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの状態に合わせ、出来ないところを声掛けや介助をしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立してトイレに行かれている方も数名いらしゃるが、出来ない方でも利用者様の尿意、便意の訴えはすぐに聞き入れ、トイレ誘導やポータブルトイレへの移乗介助を行っている。また、立位が困難な方は食事前や静養後に排泄の確認を実施しオムツ交換で清潔保持に努めている。	チェック表を活用し、利用者個々の排泄状態を詳細に把握し、チェック表を基に、個別の排泄管理表に発展させることで、自立に向けた支援を実施している。記号や番号で一目で把握できるホーム独自の工夫も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給、また10時、15時の水分補給の時にヨーグルトや牛乳を提供している。野菜やキノコ類を多めに摂り入れた食事の工夫をしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回実施している。1日3人ずつの入浴の場合もあり、体調や気分に合わせて対応をしている。入浴のない日は、陰部洗浄や清拭、足の清拭など行い、清潔を保てるように努めている。	行事や通院等やその日の利用者個々の体調に合わせて、臨機応変に入浴できるよう配慮している。利用者同士の人間関係を考慮し、入浴の順番をどう工夫しているかについて苦労話を伺うことができた。陰部洗浄や清拭、足の清拭などは、個々の状況に応じ、基本的には起床時に実施するよう心掛けている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度調整や換気を行っている。日中、居室で静養される方もおり、寝具は清潔にし安心して休んで頂けるようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の記録ファイルに添付されているお薬情報を確認している。薬の変更などがあれば、申し送りをしている。受診時や電話で医師に報告、相談をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやおしぼりを巻き、布巾干し、洗濯たたみなどその人のあった役割を提供することで充実した日々を過ごして頂けるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候により、希望があれば散歩や日光浴を行っている。ドライブや外食なども計画し戸外に出掛ける支援している。本人の希望により、家族との外出や外泊などを行えるように支援している。	天気の良い日は住宅地である近所を散歩。大湯村の菜の花ロード桜並木へ出かけた時の風景は実に見事。ドライブや外出時のうれしそうな利用者の写真を数多く見せて頂いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、紛失等の発生防止の為、大金を所持されている方には説明し、一部をホームで預かり、必要な時に渡している。受診時等でお金を使ったりされる方もいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば随時、対応している。携帯電話を持参されている方もいる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの使用される時間重なり、トラブルもあった為、使用中(ピンク)、空(青)の表示の札を付けている。芳香剤は香のキツイ物もある為、注意している。ホールにはその月ごとに季節感のある装飾プレートを飾っている。	前回の外部評価結果を踏まえ、日常利用者が使用する棚が少々高い場所に位置していることから、取り出す際の棚からの物の落下を防止するため、また、地震の際の落下防止も考慮し、早速棚に縁を細工したとのこと。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多彩な共用スペースがない為、一人になれたり出来るのは、居室のみとなる。ホールでは、年1、2回レイアウトの変更を実施し気分転換を図っているが、認知症状により変化に対して順応性が低い。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人の希望を重視し、心地よい居場所を提供出来るよう工夫している。	ベットとタンスが備え付けであり、全館床暖房を採用しているため過ごしやすい。居室の壁には職場体験の中学生が描いた似顔絵や、誕生会や米寿のお祝いにホームが作成した本人の写真付きのメッセージが掲示されている。気になる臭い等は一切感じられない。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に扇風機や車椅子を置いている為、安全とは言えないが、自立している方が多い為、転倒などの事故には繋がっていない。		